

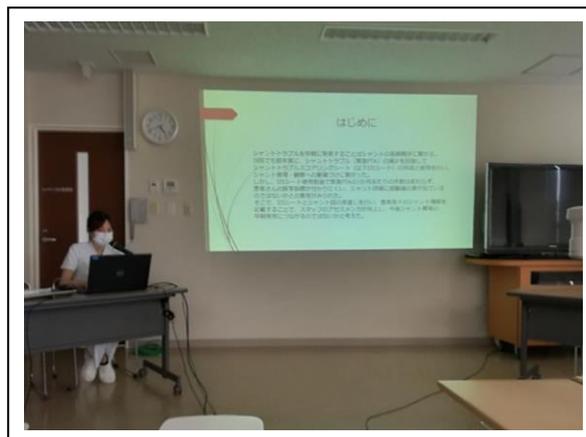
看護部生涯教育

日時:令和6年5月7日 16:40~17:20

場所:新王子病院 4F 会議室

内容:看護研究発表

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1. スタッフのシャントアセスメント力の向上に向けての取り組み | 本館透析室 阿竹 |
| 2. 透析室での災害対策への取り組み | 本館透析室 佐藤 |
| 3. 透析患者のリハビリにおけるADL変化と栄養状態の関係の一考察 | 病棟 福原 |



3例とも日々の業務から着眼点を得た看護研究でした。

1例目は、昨年に引き続きシャントトラブルを早期に発見するために電子カルテ上でシャントトラブルスコアリングシート（以下STSシート）を使用し、スタッフのシャントアセスメント力の向上に取り組んだ研究でした。昨年指摘された狭窄部位指標や経験年数の差が出にくいようにSTSシートとシャント図を見直した結果、狭窄部位の観察や穿刺部位の選定がしやすくなったとの意見がみられ、スタッフのシャントアセスメント力の向上につながったとのことでした。

2例目は、災害対策研修を行い災害時の各スタッフの役割把握と知識・意識の向上を図る研究でした。スタッフへ災害対策教育を行い、その前後にアンケートで評価したところ、避難経路や緊急避難場所の理解が深まり、さらに各々が疑問や不安に思っていることが抽出されました。

3例目は、透析患者は栄養障害の割合が多いことから、アルブミン値を用いてリハビリ患者のADLの変化と栄養状態が関連しているかの研究でした。結果、アルブミン値とADLの拡大に関して有意差は見られなかったが、看護師として食事形態や摂取量を観察し食事が入らない原因をアセスメントするとともにリハビリカンファレンスでも栄養について伝えていきたいとのことでした。

日々、これはどうなんだろうと研究の気持ちで業務に取り組んでいきましょうとの総評でした。